

あけの

めざす子ども像 「かしこく」 様々なことに興味・関心を持ち、自ら学び、考え、正しく判断し行動できる子
「心豊かに」 自分を大切にするとともに、友だちなど自分以外の人も大切に思い、つながりあって行動する子
「たくましく」 健康や体力の向上維持に努め、めあてに向かって粘り強くやりぬく子

めざす学校像 子どもが喜んで通う学校、子どもがつながりあって活動する学校、子どもに確かな学力が身につく学校

ホームページ <http://www.ise-mie.ed.jp/~akeno-e/>

編集・発行 校長 中村幸博

友だちのことをもっともっと知ろう！6年生の授業

先日7/6(水)6年生A組で『友だちのことをもっと知ろう』という目標で学活の授業が行われました。小俣中学校区の先生方への公開(明野小の先生方はもちろん)という形で実施され、小俣中学校や小俣小学校、明野高校の先生方だけでなく、しらとり園やあけぼの園の先生方も見に来ていただきました。

内容は、3月に交通事故に遭った友だちの思いのつまった作文を聴き、自分の体験や思いを重ねて意見や思いを交わし合い、学級の仲間一人一人を互いにより分かり合うようにしたい、作文を発表する友だちとより関わりあうようにしていこう、というものです。

担任の中村先生は、今年度4月に異動して3か月。子どもたちと真剣に向き合い、子どもたちのことをよく知り、支え、信頼関係が十分にできあがってきています。それが反映する温かい授業で、子どもたち一人一人も素直に、かつ真摯に課題にのぞみ、自分の思いや考えを述べていました。6年生としての成長をうかがえる授業でもありました。

授業は、作文の発表の後、子どもたちがさらにたずねてみたいことを考え、質問します。その答えで友だちの思いを深く知ることになり、子どもたち一人一人の感想を発表していきます。

授業の初めは、たくさんの参観者のための緊張からか、発言が滞る時間帯もありましたが、徐々に思いを語る子どもたちが出てきて、「もっと支えたい」「私のケガをした経験では・・・」「僕の母親の病気のときに・・・」

など前向きな言葉や自分の経験と重ねての発言が出て、振り返りの時間がわすかになりました。

作文発表をして、自分の思いを語った男子(上)

明野小職員の研究テーマは「学び合い、高め合う授業づくり」です。一人一人が高まる授業でしたが、「高め合う」まではまだ道半ばです。「言葉が心を支える」と発言を終え、笑顔の女子(左・中央)

自分の経験を話した女子(下)

発言の口火を切った男子2名(写真左下2枚)、温かな、支える発言をした女子(下)



授業初めのあいさつ、左端が中村先生(上)



作文発表をして、自分の思いを語った男子(上)



明野小職員の研究テーマは「学び合い、高め合う授業づくり」です。一人一人が高まる授業でしたが、「高め合う」まではまだ道半ばです。「言葉が心を支える」と発言を終え、笑顔の女子(左・中央)

自分の経験を話した女子(下)



6年生、歴史の文化を学んで・・・！

6年生は修学旅行で奈良・京都の歴史建造物や雰囲気学び、それを『修学旅行新聞』として一人一人がまとめています。ほぼ全員が完成しましたので、掲示され、それらを見て互いに学ぶことになるでしょう。

資料片手に新聞作りを進める6C男子(右)

また、社会科での学習は、飛鳥・奈良時代から平安時代が修学旅行のところで、まさに知識をホンモノにする学びの旅だったと思います。

さらに見学した銀閣寺、金閣寺、二条城などは、その記憶が6月の学習をカバーするものになっていることでしょう。

そんな中、銀閣・金閣が建てられた室町時代の文化、さらにはこれから学習する江戸時代の文化を学習していきます。その多くを支えた差別された側にいた人々のすばらしさ、さらに少し進んだ学習をして部落差別、差別に負けずに技術を磨き、すばらしい文化を築き、今に残している人々の活躍を各クラスで学びました。例を挙げれば、子どもたちが実際に見聞きしてきた銀閣寺のすばらしい庭づくり、また、その庭を三代に渡って造り上げた方々の生き様の清廉さなど。さらに、職業としては、芸能に携わる人々、医業や警護・葬儀を扱う人々、皮革産業の人々など。しかしながら、これらは差別を受けてきた人々です。その学習に子どもたちは「おかしい」「自分たちががんばらねば・・・」との感想を持ちました。次にB・C組の感想の一部を紹介します。



○みんなと話し合いをして、差別は差別される側ではなく、差別する側が変わらないといけないということが分かりました。差別を少しでもなくせるようにするためには、一人一人が自分の目で見て判断することが大切なんだと思います。これからは正しい歴史を学んで、差別をする側に伝える側になろうと思いました。「かわいそう」と言うのではなく、差別をされる側の人と向き合うことが大切なんじゃないかなと思いました。

○これから自分たちはどうしていけばいいかの話し合いで、みんなの意見から「正しいことを勉強して、歴史を何も知らない人に伝えていく」という意見になりました。いじめも差別もする側が変わらなければいけないと思いました。

○死や自然をおそれているからって、それに関わる仕事をしている人を差別するのはいけないことだと思います。社会を支えて、社会にとって必要な産業や芸術を担った人たちが数多く見られたということは、少ししとして差別してしまったのかなとも思います。・・・今ではとっても重要な仕事が、昔差別をされていたということ知りました。

学校水泳は先週、猛暑のおかげで、順調に実施されています。

学校水泳、順調に・・・！

プールが学校の南西部に位置しているので、午後は陰になるところがありません。先週の午後は、プールサイドの気温が38℃、水温31℃の記録もありました。しかし、子どもたちはプールが大好きです。仲間といっしょに水に触れ、泳げるようになる一この活動を楽しんでいます。



各学年とも泳力や水に慣れているかどうかに応じて、3つグループに分け、一人一人の水泳への姿勢の向上や泳力アップに向けて細かく指導しています。上の写真は1年生の水泳の授業の一環です。

バタ足の練習—みんなで足を伸ばして(写真左上)

水の中へ入りカエル跳びの模範を示す男子(中)

水の中へ顔をつける確認をする1Bの子どもたち(右)

前号の訂正と謝り

前号(No.29)で、「福田 碧さん、全国大会出場」をお知らせしました。うれしい報告でした。

全国大会の会場が、

横浜三ツ沢陸上競技場→横浜日産スタジアム

でしたので、訂正し、再度紹介いたします。

すみませんでした。